

この解答速報の著作権は、TAC（株）のものであり、無断転載・転用を禁じます。



2018 年証券アナリスト第 1 次試験（秋試験）

解答速報！

2018/10/12 現在

【経済】

第 1 問（22 点）

I 問 1 D 問 2 A 問 3 B 問 4 D 問 5 A 問 6 A
II 問 1 D 問 2 B 問 3 C
III 問 1 B 問 2 E 問 3 C

第 2 問（35 点）

I 問 1 B 問 2 D 問 3 A 問 4 A 問 5 E 問 6 D 問 7 A
問 8 D 問 9 E 問 10 C
II 問 1 A 問 2 C 問 3 C
III 問 1 B 問 2 D 問 3 C
IV 問 1 B 問 2 C 問 3 E

第 3 問（15 点）

問 1 D 問 2 B 問 3 B 問 4 A 問 5 B 問 6 B 問 7 C
問 8 D 問 9 D

第 4 問（18 点）

I 問 1 C 問 2 D 問 3 A 問 4 A
II 問 1 A 問 2 C 問 3 A
III 問 1 D 問 2 B 問 3 C

この解答速報の著作権は、TAC（株）に帰属するものであり、無断転載・転用を禁じます。

なお、この解答速報は、TAC 独自の見解に基づくものであり、正解であることを保証するものではありません。また、後日情報を更新する場合がありますので、ご質問などの受付はいたしかねます。

この解答速報の著作権は、TAC（株）のものであり、無断転載・転用を禁じます。



2018 年（秋）証券アナリスト 1 次試験

「経済」

今回の試験の特徴として、昨年の秋試験以降の新傾向の内容を踏襲しつつ、さらに新しい内容が取り込まれている点が挙げられます。具体的には、第 2 問Ⅲの「長期均衡モデルとそれを基礎とするソロー・スワン経済成長モデル」に関するまとまった問題が、昨年の秋試験に引き続き今回も出題されました。さらに、第 2 問Ⅳでは、IS-LM 分析の計算問題が、証券アナリスト試験においてはじめて出題されました。ただし、この計算問題では、財市場の均衡条件式や貨幣市場の均衡条件式が与えられていないことなどから、多くの受験者にとって、問題文の式をどのように処理して良いかわからない問題となってしまったと思われます。このため、今回の試験も、これら「新傾向問題」以外の基本的な内容の問題からでどれだけ得点できたかが合否を分ける鍵となっていると考えられます。

問題の構成を見てみますと、過去の本試験と同じように、大問 4 問で構成されています。ただし、小問の問題数は、第 1 問が 12 問、第 2 問が 19 問、第 3 問が 9 問、第 4 問が 10 問と、全部で 50 問となっており、昨年の秋試験と比較すると 4 問も減少していました。一方、満点 90 点のうち各大問の配点は、第 1 問が 22 点、第 2 問が 35 点、第 3 問が 15 点、第 4 問が 18 点と、こちらは昨年の秋試験と同じ配点でした。

大問別に今回の試験の概要について見てみると、第 1 問（ミクロ経済学）では、消費者行動の分析（無差別曲線の性質、需要の所得弾力性、代替効果と所得効果、ギッフェン財など）、企業行動の分析（等生産量曲線、利潤最大化、短期の総費用など）、完全競争市場（需給均衡、市場需要の価格弾力性、市場均衡における生産者余剰など）、不完全競争市場（独占市場、クールノー競争など）、市場の失敗（外部効果、公共財など）状態価格、ゲームの理論、情報の経済学（逆選択、モラルハザードなど）から出題されています。

第 2 問（マクロ経済学全般）では、国民経済計算、資金循環統計、貨幣乗数、IS-LM 分析、AD-AS 分析、失業とインフレ（フィリップス曲線）、貨幣数量説、フィッシャー方程式、インフレの社会的コスト、ライフサイクル仮説、長期均衡モデルとそれを基礎とするソロー・スワン経済成長モデルなどが出題されています。

第 3 問（金融経済）では、金融システム、資金循環、日本銀行の取引と民間銀行の準備預金の増減、日本の金融政策、日本のマネースtock統計、日本銀行と金融調節、日本の財政、公債発行の問題点など、これまでも出題されている知識の問題が中心となっています。

第 4 問（国際金融）では、貯蓄投資バランスと貿易・サービス収支、オーバーシュート・モデル、ポートフォリオ・バランス・アプローチ、金融緩和政策と為替レート、購買力平価説、国際収支統計などが出題されています。

以上